

知的障害者の高等教育の国際比較(アメリカ・カナダ・オーストラリア・日本)

知的障害者の高等教育が確立していない日本において、私たち鞍手ゆたか福祉会は、「障害の有る無しに関わらず全ての人に高等教育が保障されるべきである」との理念を掲げ、その実現を目指している。そのためにも、今の法律や社会制度の中でできることを福祉のシステムを使って実践し、将来的には障害者が当然の権利として高等教育を受けられるよう法整備を含む社会変革を実現したいと願っている。そのフロントランナーとなるべく、私たちは世界の先進的な実践に学び、交流をしながら実践の充実と関係諸機関への働きかけを進めてきた。以下はこれまで視察・交流してきた大学やプログラムの取組と私たちの取組を表にまとめたものである。

	<福祉・分離型>	<完全統合型大学>			<統合・分離折衷型大学>	<完全分離型大学>
大学名	ゆたかカレッジ	A大学	B大学	C大学	D大学	E大学
国	JPN	USA	AUS	CAN	USA	USA
依拠する法的・社会的制度	・国連障害者権利条約 ・障害者差別解消 ・障害者総合支援法	・ADA ・国連障害者権利条約 ・高等教育機会均等法	・国連障害者権利条約	・国連障害者権利条約	・ADA ・国連障害者権利条約 ・高等教育機会均等法	・ADA ・国連障害者権利条約 ・高等教育機会均等法
学生数	約120人	約12,400人	約51,300人	約12,500人	?人	約1,600人
受入障害学生数	120		10人	12名～14名		24名
受入障害 知的軽度	○	○	○	○	○	○
重度	○				○	
発達障害	○	○	○	○	○	○
入学選考方法	書類審査・面接による意思確認					
	原則全員受入	選考	選考	選考	選考・	選考
修業年限	2年+2年の4年制	半年～2年程度			2年制?	2年制
履修科目	社会的自立 就労支援	本人希望のプログラム選択	本人希望のプログラム選択	本人希望のプログラム選択	基本的に大学が定めたプログラム	基本的に大学が定めたプログラム
受講形態	福祉事業所利用者	聴講生	聴講生	聴講生	聴講生	聴講生
単位・学位取得	なし	なし	修了証書あり	なし	なし	なし?
授業料・助成金等	授業料負担なし 福祉的助成あり	・授業料負担あり ・授業料助成あり ・連保政府補助金	・授業料負担あり ・授業料助成あり ・州政府補助金	・授業料負担あり ・授業料助成あり	・授業料負担あり ・授業料助成あり	・授業料負担あり ・授業料助成あり
支援体制	・独自プログラム ・支援教員	・THINKCOLLEGEプログラム ・教官 ・メンター(一般学生)	・IEPプログラム ・教官 ・コーディネーター ・メンター	・IA(NGO)大学支援プログラム ・教官 ・メンター・メンター(一般学生)	・独自プログラム ・教官 ・メンター	・Threshold Program ・専門的訓練を受けた教官
教育内容	・生活自立力の育成 ・社会的自立の育成	・興味、関心あるプログラム受講	・6学部で受入 ・興味、関心あるプログラム受講	・障害学生も興味、関心ある一般の講義を受講	・学生の障害程度に合わせた内容	・ライフスキル向上 ・就労スキル獲得
特徴	・福祉制度を利用した障害者の高等教育	・教育のユニバーサルデザイン ・評価の集約による研究の、実践の深化	・CDSによる支援 ・本人主体 ・評価ツール(I CAN)	・スタッフと本人、家族の密接な関わり	・コミュニティカレッジの強みを生かした柔軟な受入	・卒業後の生活支援を想定
成果	・障害者の高等教育制度がない日本での教育モデルを構築 ・知的障害者の学びの必要性を実践提起	・インクルーシブな高等教育の在り方を研究・実践 ・高校教育のインクルーシブ化推進 ・教官、一般学生の人権意識向上	・インクルーシブな高等教育の在り方を研究・実践 ・知的障害者の教育の意義を実証 ・教官、一般学生の人権意識向上	・インクルーシブな高等教育の在り方を研究・実践 ・知的障害者の教育の意義を実証 ・教官、一般学生の人権意識向上 ・卒業生の社会参加	・分離型、統合型の良さを生かした実践と比較による知的障害者の高等教育のよりよきあり方を研究 ・個々のニーズに即した教育の提供 ・地域における障害者理解の促進	・障害学生相互の行動様式や生活様式の学びの保障 ・キャンパス内外の交流による一般学生と障害学生相互の理解 ・インクルーシブな社会構成員としての成長
課題	・大学との連携 ・教育支援プログラムの充実 ・インクルーシブな教育環境づくり	・受講者の拡大	・障害者保険制度に対応する社会企業モデル構築 ・プログラムの改善	・インクルーシブな高等教育実施大学の拡大 ・州政府からの補助金継続	・分離型、統合型双方の、インクルーシブな社会形成者育成を見据えたプログラムの改善	・社会や世界情勢を見据えたフルインクルーシブへの段階的移行

【考察】
視察先の高等教育の実践形態は完全統合型・統合・分離折衷型・完全分離型に分けることができる。それらを現段階でフルインクルーシブ＝先進的であるという価値観でまとめて判断することは避けるべきである。目指すところはフルインクルーシブな高等教育、社会、国家である。しかし、これまでの教育のあり方や社会制度、法整備の状況等によりまだまだその実現が難しい国、地域もある。その中にあっても状況に応じた実践を積んでいることはどれも価値ある取組である。その価値を相互に認め共有し合い、現状の中でフルインクルーシブに向けた一歩一歩を世界各地で積み上げているという事実が大切なのである。

私たちの取組はまだ始まって4年にすぎない。しかし、私たちの取組に対する共感と支持は年々広がりとも高まりを見せている。それは立法府の中にも及んでいる。

私たちは今後も様々な実践に学びつつ、日本の現状の中でできる最善の道を探っていきたい。そして、障害者の高等教育確立を願う世界の人々と連携し歩み続けたいと思う。